

1 A 宇宙連詩

第1詩

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

第2詩

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりである

(覚 和歌子)

第3詩

帰り道 ふと空を見上げると

そこには何年経っても変わらないヒカリたちがいる

みんなは誰よりも昔を知っている歴史の博士

(飯島 萌子)

第4詩

友達と遊んでいる時

空を見ながら 考えてみた

あの雲って 何に見える？ 私はいろんな物に見えるかなあ

やっぱり！私もだよ！

友達ってやっぱりさあ 一緒にいるだけでも 楽しいよねえ

(新井 那英)

第5詩

友達の笑顔はきれいだけど

本物の笑顔かな

でも本物じゃなくてもその笑いは好きだ（新田 圭祐）

第6詩

友達の笑顔を見ていると

私も 自然と 笑顔になる

なんだか 楽しく なって来る

魔法の笑顔

友達の笑顔は 宝物（小川 美里那）

第7詩

泣きだしそうになった時

なにもかもが イヤになる

魔法が 使えればいいのに（梅木 美宙）

第8詩

泣きたくなったら 魔法をかけてあげる

その悲しみ 半分にしてあげる

喜びは 2倍にしてあげる

親友だから できること

キラキラな笑顔 たくさん増やそうね

（内田 明日花）

第1詩

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

第2詩

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりでいる

(覚 和歌子)

第3詩

暗い部屋の中で泣いていたら

カーテンがゆれ 満月がほほ笑みかける

一人じゃないよと 光を心に届けてくれた

(齋藤 みなみ)

第4詩

小鳥の歌声で目が覚めた

カーテンのすき間から太陽の光がさしこむ

私はそれをとても温かく感じた

窓を開けるとすがすがしい風が私をつつみこんだ

私の心は青空のように晴れあがった

(小山 このみ)

第5詩

外に出ると たくさんの花が 私に ほほえみかける

風が ささやき 太陽が笑った

白い雲が 散歩している（中村 美奈萌）

第6詩

今日の天気は雨 たくさんたくさん雨が降る

毎日毎日天気がいいと太陽はつかれてもう大変

雨はきらわれものだけど雨のおかげで命がある

今日の天気は雨 たくさんたくさん雨が降る

私は1人外を見て 七色の橋を見つめていた

（小山 萌衣）

第7詩

葉っぱから しずくが流れ落ち 水でぬれた道路は 太陽の光に照らされて金色に光る

くもの巣についた 小さな雨粒が 太陽の光に照らされて銀色に光る

雨上がりの貴重な世界が 私の瞳に輝いて映った

（小山 このみ）

第8詩

その世界は 春のようだ

今は 冬 とても寒い

いきをはけば いきは白い

そのいきは 雪のようだ

すぐにあたたかい春がくるだろう

（小山内 悠貴）

第9詩

もう白い景色の季節は終わってしまう

すぐに春は来る

そして新しい一歩を踏み出そう

(関口 俊介)

1C 宇宙連詩

第1詩

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

第2詩

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりでいる

(覚 和歌子)

第3詩

小さいころは知らなかったお母さんの苦労

何にも知らないのにわがまま言ってごめんね

でも今はわかるよ「お母さん」は大変だってこと

(中島 美雅)

第4詩

いつも一緒にいる友達は

私の悩みを聞いてくれる友達

困っている時助けてくれる友達

いろんな事を思ってくれる友達

そんな友達と私は生きている

(蝦名 真優香)

第5詩

私には悩みがないと

うそをつく私がいる

私はそんな自分がいやになる

(高橋 優也)

第6詩

いやになることっていっぱいある

ほんのささいなことで友達とケンカしちゃったり

がんばって勉強したのに テストで良い点とれなかったり

でも つらい分 うれしいことも いっぱいあるから

私は今日も 前を向いて 一步一步 歩いて行く

(岡本 香菜)

第7詩

歩いていくと一つトビラがあった

そのトビラは新しい世界へのトビラ

勇気を出して開けて見れば広い世界がそこにある

(加賀 春奈)

第8詩

心の中のトビラっていくつあるんだろう

100個、あるいは1000個くらいかな

でも、心の中のトビラは

本当は自分の感情だったりもする

私にはまだまだ開けていないトビラがいっぱいだ

(西沢馨)

第9詩

ここは無限の部屋

まわりの壁はすべてトビラ

トビラの数だけ悩みがある

(吉田 拓人)

宇宙連詩 (D組編)

【第1詩】

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

【第2詩】

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりである

(覚 和歌子)

【第3詩】

辛いとき 悲しいとき

支えてくれる人は

私と同じ空を見ている人たちなのだろうか？

(松下 亜香理)

【第4詩】

いきづまる この世界で

空を見上げて

感動したり 発見したり

きっと、そのうち忘れちゃうだろうけど

望み、願うことはきっと忘れないと思う。

(中村 友映)

【第5詩】

あの人の願いは なんだろう

この人の願いは なんだろう

みんなの願いかなうといいな

(江藤 瑞穂)

【第6詩】

失敗しても次にすすもう

百回やってだめでも 百一回目はどうだろう

なにか変わるかもしれない

こんな気持ちがあったら すてきだと思う

みんなもそう思っているのかな

(河端 麻里)

【第7詩】

生きている中で

何か失敗したらどうする

あきらめるか 一歩進むか

(柴 憲之)

【第8詩】

あきらめたらそこでおしまい

しかし一歩進めば明日がある

明日があるから未来がある

未来があると自分が変わる

自分が変わると全てが変わる

(大沢 真)

【第9詩】

人は誰かに支えられて変わる

支えてくれる人を探そう

自分のために

(橋爪 悠)

宇宙連詩 (E組編)

【第1詩】

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

【第2詩】

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりでいる

(覚 和歌子)

【第3詩】

昼は太陽 夜は月

時間はそれぞれ違うけどみんな輝くときがくる

どんなに小さい存在でも、輝けるならそれでいい

(廣瀬 優衣)

【第4詩】

みんな輝いているね。

にこにこしながら楽しくね。

一人が輝いていなければ

まわりの方は、悩むよね。

だからみんな輝けよ。

(畑 洸吉)

【第5詩】

豆電球の光はとても明るい

でも人がもっている光は 豆電球よりずっと明るい

もしみんなの光を集めたら それは明るい月になる

(松尾 早希)

【第6詩】

月は空からこの地を見る

高い空からこの地を見ている

月の光はこの地を照らす

月の光は人を照らす

月の光は未来を照らす

(浅田 航希)

【第7詩】

月の光が照らす未来

未来は知らない場所だから

いつも希望に飾られる

(田島 みのり)

【第8詩】

ぼくたちの

未来はまだわからない

だって

自分たちで

作るものだから

(宇治 慎太郎)

【第9詩】

未来は無限の意味がある

十年 千年 一万年

ぼくたちも無限の未来を持つ

(岩下 八起)

宇宙連詩 (F組編)

【第1詩】

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？

(谷川 俊太郎)

【第2詩】

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりでいる

(覚 和歌子)

【第3詩】

明日は どうなっているの？

来月は？ 来年は？

未来の自分は笑ってるの？

(小又 理沙)

【第4詩】

人はみな笑っている

おこったり、泣いたり、

でも人はみな笑っている

動物もみな笑っている

笑わないものは、この地球にはいない。

(柳井 慎平)

【第5詩】

地球にいる人はみんな同じだ

泣いたり 笑ったり 喜んだり

性格は同じじゃないけど 喜んだりするのは一緒だ (吉澤 泰志)

【第6詩】

地球にはいろんな国がある

国の言葉はちがうけれど

気持ちは同じ

笑ったり喜んだりするのも同じ

この地球にちがう人なんていない (山脇 紗弥)

【第7詩】

この世の中に人種差別なんていない

仲間はずれなんていないんだ

だって皆 精一杯生きているのだから (佐藤 七海)

【第8詩】

今みんなが生きている世界の中で、

消え去ってしまうものなんてい。

手にとってさわれなくても、

目に見えなくても、

誰かの思い出として残っている。 (渡邊 久留実)

【第9詩】

生きている中で一番大切なのは

やっぱり心だと思う

だから素直な心を大切にしたい (尾曲 瑞季)

宇宙連詩 (G組編)

【第1詩】

昼は青空の顔をしている

夜は星空の顔になる

宇宙とはどんな気持ちでぼくらを見ているのだろう？ (谷川 俊太郎)

【第2詩】

展望台の望遠鏡から目はずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりである (覚 和歌子)

【第3詩】

私のお父さんはどこにいるんだろう？

地平線の向こうにいるのかなー？

だからお母さんが見てたのかなー？ (後藤 千花)

【第4詩】

今日は跳び箱で

一瞬ムササビになった。

飛んだ瞬間

頭がまっ白になった。

良く見たら膝が赤くなっていた。

(幸田 真也)

【第5詩】

まっ青な空を見たら

空を飛んでみたくなって

まっ白い雲に手をのばした

(田中 夏奈美)

【第6詩】

雲が流れて

どこかへ形を変えながらゆらゆらと

ゆっくり流れている

たまにCGみたいな雲を見ると

乗ってみたくなった

(拝志 和樹)

【第7詩】

私は追い求める

大切な事を

広がってゆく夢や希望に

(嶋崎 のぞみ)

【第8詩】

昔の自分を振り返った。

あの時の事を思い出すと

心の中から涙が出るように心が傷む。

忘れたくとも忘れられない。

あの時の出来事は！

(中村 優希)